

平成 9 年度試験研究成果

区分	普及	題名	仕上げ飼料（抗生剤無添加）による南部かしわの肥育		
〔要約〕 健康・安全食品生産の観点から、高品質肉用鶏「南部かしわ」を無添加飼料で肥育し、長期・安定供給の指標を得た。					
キ-ワ-ド	南部かしわ	仕上げ飼料	長期・安定出荷	畜産研究所 家畜育種研究室	

1. 背景とねらい

南部かしわの生産においては、これまでプロイラ - 用飼料の利用を指導してきたが、高品質肉用鶏として健康・安全食品の生産も今後の検討課題である。また、薬事法による出荷規制を受けずに、中抜き出荷によるフレッシュ肉の長期・安定供給も必要な技術となっている。

そこで、肥育期間中に飼料添加剤を含まない飼料を利用して肥育試験を行い、若干の知見を得たので紹介する。

2. 技術の内容

- (1) 育雛パタリ - で育成した 4 週齢の「南部かしわ」を、ウィンドウレス平飼い鶏舎に坪当り 9 羽を収容し、出荷日齢（雄 1 4 週齢、雌 1 6 週齢）まで飼料添加剤を含まない市販のプロイラ - 仕上げ飼料を給与することによっても、良好な出荷率が得られる。（表 1、表 2）
- (2) 粗たん白質、粗脂肪含量の高い仕上げ飼料の利用により、4 週齢以降の 1 日平均増体重が改善され、8 週齢・1 4 週齢での体重を大きくすることができる。また飼料要求率は 3 . 9 9 を期待でき、生体 1 k g 当りの生産に要する飼料費は 2 0 8 円と、慣行法と比較しても差が認められない。（表 3）
- (3) 仕上げ飼料の利用により肥育終了時の体重が大きくなり、各部位の筋肉重量においても有意な差が認められるが、精肉歩留りには差は認められない。（表 4）
- (4) 仕上げ飼料給与により、雄の 7 割、雌の 5 割が標準とする出荷予定日以前に出荷できる。（表 5）
- (5) 屠体の検査結果においては、両区に差がなく十分に食用に供することが可能と認められた。
- (6) 以上のことから、衛生対策に万全を配しながら、南部かしわを当初から仕上げ飼料で肥育する方法は、イメージ向上のためにも、安定供給のためにも有効であると考えられる。

3. 普及上の留意事項

- (1) 収容する鶏舎は、素雛導入の都度に水洗・消毒後、乾燥した施設を供用することが重要である。
- (2) 4 週までの育雛期間中に、マレックワクチン、NB（ニュー - カッスル・鶏伝染性気管支炎）生ワクチンを接種し、衛生対策に万全を期する。
- (3) 飼料要求率並びに飼料費は、農場副産物を利用することによってさらに改善することが可能である。

4. 技術の適応地帯

県下全域

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔養鶏 1〕 - 1 - (2) ウ 「優良鶏性能調査事業」

6. 参考文献・資料

昭和 6 1 年	参考事項	高品質特殊鶏「南部かしわ」の飼養管理マニュアル - 放飼いを利用した飼養形態 -
平成 7 年	普及奨励	農業用施設の効率利用による南部かしわの生産促進

7 試験成績の概要

表1 給与飼料と成分

(単位; %)

日 齢	1	28	70	屠殺-7	屠殺	備 考	
仕上げ飼料区	前期飼料	仕上げ飼料			衛生プログラム マレック 0日 栄養剤 1,26~28 抗生剤 1~3 NB生ワク 4,25 屠殺日齢 雄: 14週齢 雌: 16週齢		
慣行飼料区	前期飼料	中期飼料	後期飼料	仕上飼料			
成 分	粗たん白質	21.0	18.0	15.0		18.0	
	粗 脂 肪	3.5	2.5	2.5		5.0	
代謝エネルギー	2,950 Kc	2,800	2,750	3,170			

表2 出荷率 (単位:羽、%)

飼料・性	肥育(4~14・16週齢)		
	開始	終了	出荷率
仕上雄雌	30	30	100
	29	29	100
慣行雄雌	31	31	100
	28	28	100
全体	118	118	100

表3 発育成績

(単位: g,円)

性・飼料	各週齢の体重				1日平均増体重			要求率	飼料費
	4週齢	8週齢	14週齢	16週齢	4W~8W	8W~14W	全期間		
雄 仕上(30)	506 ± 36	1517 ± 98	2926 ± 206		36.1 ± 2.9	33.5 ± 4.0	29.7 ± 2.1	3.82	197
	慣行(31)	491 ± 38	1436 ± 136	2686 ± 233		33.7 ± 4.0	29.8 ± 3.0	27.3 ± 2.4	4.44
雌 仕上(29)	436 ± 32	1232 ± 112	2088 ± 191	2333 ± 217	28.4 ± 3.1	20.4 ± 2.3	21.0 ± 2.0	4.23	220
	慣行(28)	438 ± 36	1177 ± 105	2038 ± 177	2218 ± 168	26.4 ± 2.8	19.3 ± 1.7	20.0 ± 1.5	5.22
飼料間有意性	N.S.	**	**		**	**	**		
仕上飼料平均	472 ± 49	1376 ± 178	2514 ± 466	2333 ± 217	32.3 ± 4.9	27.1 ± 7.4	25.5 ± 4.8	3.99	208
慣行飼料平均	469 ± 47	1314 ± 178	2354 ± 404	2218 ± 168	30.2 ± 5.1	24.8 ± 5.8	23.8 ± 4.2	4.77	200

注: 全期間のD.G.; 雄14週齢
雌16週齢

表4 解体成績

(単位: g, %)

性・飼料	屠殺前重量	屠体重量	ムネ重量	モモ重量	ささ身重量	精肉歩留り
雄 仕上(30)	2907 ± 207	2697 ± 185	364 ± 29	608 ± 55	107 ± 9	39.8 ± 1.4
	慣行(31)	2686 ± 235	2521 ± 235	331 ± 37	565 ± 57	98 ± 13
雌 仕上(29)	2270 ± 223	2081 ± 203	317 ± 43	470 ± 51	97 ± 9	42.5 ± 1.8
	慣行(28)	2210 ± 178	2027 ± 156	313 ± 31	457 ± 42	96 ± 8
飼料間有意性	**	**	**	*	*	N.S.
仕上飼料平均	2624 ± 383	2424 ± 364	342 ± 42	546 ± 87	102 ± 10	41.0 ± 2.1
慣行飼料平均	2483 ± 318	2310 ± 319	324 ± 36	519 ± 74	97 ± 11	40.9 ± 2.2

飼料費; 生体1kg生産のための費用

注:
$$\text{精肉歩留} = \frac{\text{ムネ} + \text{モモ} + \text{ささ身}}{\text{屠体重量} \times 100}$$

表5 長期・安定出荷に対応できる羽数の割合

(単位: %)

項目(羽数)・週齢	12	13	14	15	16	17	18
仕上げ飼料区	雄 (30)	20	53	24	3		
	雌 (31)			28	28	17	17
慣行飼料区	雄 (29)			71	19	10	
	雌 (28)					54	17

注: 一内は雄 2.6kg、雌2.2kg以上に達し、早期出荷に対応できる割合